

釣れ釣れなるままに

2010年思い出の釣行記 PART. 6

ビギナーズ力

鹿島釣狂

とんとん会第4回大会

☆開催日	平成22年9月4日
☆開催場所	庶野漁港～音調津漁港
☆入釣場所	オニトップ
☆釣果	アカハラ 387 mm 3
	アブラコ 320 mm 2
	重量 2600 g
☆成績	合計点数 967 点
	成績 4 位

とんとん会

同じ岩見沢市にある「とんとん会」の大会に誘われた。「とんとん会」は、金曜日に出発し土曜日の釣りとなるため、勤務をやりくりしなければならないが、釣り場は独占状態、我が物顔となるのが魅力だ。

7月の釣遊会4回大会は狙ったタカノハがリリースサイズばかりだったので、リベンジを期してこの範囲でタカノハマークの付いているオニトップに入ることにする。9月なのでオニトップ川周辺で嫁となるアカハラを釣りながらタカノハを狙おうとしよう。5時半ごろが最干潮となるが、オニトップは引き潮に合わせて出て行けるような岩場はないと聞い

ているので、タカノハが駄目なら潮止まりの5時頃浜中橋方面に移動しようと考えている。

市販のタカノハ仕掛に似せて、ハリスに小型の発泡スチロールを付けたものをいくつか用意した。もちろんアカハラ仕掛も道具入れに忍ばせた。

他会の大会に参加するのは初めてである。釣遊会からは西川氏、島氏も参加した。「とんとん会の会員が次から次へと回してくる酒のつまみに舌鼓を打つ。ほろ酔い加減で出てくる機転の利いた話にどっと笑いが起こる。参加させていただいているという気楽さからか、大会前特有の張り詰めた緊張感を感じることもなく釣り場に着いてしまった。

頭を出した岩場が点々と沖に連なりその根境で竿を出した。まずは、アカハラ仕掛を近投、アブラコ仕掛を中投、タカノハ仕掛を遠投する。狙い通り近投でアカハラがパタパタと釣れ続いた。ハゴトコもきて2魚種5匹はそろったが、本命であるタカノハの気配は感じられない。

やむなく浜中橋方面に移動する。外側にテトラの投入はなく防潮堤下まで波が押し寄せているところで歩みを止めた。沖には適度なサラシが見え隠れしている。防潮堤に沿って幅の広い歩道が付いており、安全でしかも楽な釣りが出来そうだ。

防潮堤の上からサラシの際を狙って3本の竿を遠投する。30cmほどのアブラコが釣れる



のだが大物が来ない。太平洋には珍しいように思う。これだけアブラコがくるのだから大物の1本ぐらいは混ざっていいのにとと思うがままならない。せめて40cmに届きそうなものをもとと思って、100m程を横に移動しながらあちこちに打ってみたが、結局35cmを超えるものは出なかった。

浜中橋から覆道方向を望む。防潮堤の横に歩道が付いており安全でしかも楽な釣りができた。

審査では4位入賞となったが、狙った魚が釣れないとなると何とも愛想がない。楽な釣りをしてしまったのがいけなかったのだろうか。太平洋ではやはり干潮に合わせて岩場の先端に出て豪快に竿を振りたいたいものである。

岩見沢釣遊会第5回大会

☆開催日	平成22年9月12日
☆開催場所	小平川～苫前港
☆入釣場所	小平薬川河口右
☆釣果	アカハラ 526 mm 4
	重量 5460 g

☆成績 合計点数 1072 点
成績 重量優勝
ねらいのハゴトコ？

車を入れ替えることにした。我が愛車ハリアーは平成11年12月車で、現在で11年目を迎えている。走行距離も10万kmを超えた。通勤利用はほとんど無く、釣行が主だ。愛車は海岸縁の砂浜や山道の悪路、そして雪のツルツル路面で酷使しても埋まることも故障したこともない。その走りに不満はないのだが、燃費が1ℓあたり7kmいけばよいほうだ。定年退職した今年は釣行がぐんと増した。収入減のことを考えると少しでも燃費のよい車がほしいのだ。

政府が経済対策で打ち出したエコ減税は残るらしいが、9月末と言っていたエコ補助金は予算限度額を超えたということではなくなるらしい。どんな車があるのかと岩見沢市内のディーラーを一巡りしてみる。釣行のことを考えて1500CC程度のジープタイプを物色した。大会後に再度考えてみよう。

9月の大会をこの方面で開催するのは久しぶりでアカハラ釣り大会となる。大会前日、エサの購入のため岩見沢釣り具センターに立ち寄ると竿道会の宮野一成氏に出会う。現在は、釣遊会を退会して「北海道名人会」や「札幌竿道会」に籍を置いており、その活躍ぶりは風の便りでも聞いていた。私が岩見沢釣遊会に入会した頃の頃は、まだまだ青年の面持ちであったが現在は頭に白いものが混じっている。宮野氏も私を見て、言葉に出さないものの同じようなことを思っただろう。

小平薬川のアカハラ釣りについてご教示願う。宮野氏は「強い流れの中にいる大アカハラを狙うための40号天秤鉛をつくるためにステンレス線を買いに来た。河口左の砂州で出来た湾洞にも大アカハラはいる。嫁は河口の沖120m程に根があり、アブラコが出る。または河口右50m程の沖根を狙うとよい。『とんとん会』の湯浅氏がこの根でアブラコを取り優勝を果たした」と申し分ない情報を伝えてくれる。そして、私も40号天秤鉛作成のためのパーツを購入した。

私は小平薬川には一度も入ったことはない。小平薬川のアカハラ釣りには魅力があるが、その混雑ぶりが気に入らないので、古丹別川河口に入ることが多かったのだ。今回はこの周辺での大会は開催されていないと聞いている。たとえ他の会と競合したとしても、午後7時出発の釣遊会が先陣を切ることになるだろう。釣遊会の参加者も9月のアカハラ釣りとなると人気なくなり極端に少なく寂しいばかりだ。

バスは予定通りに出発した。小平薬川には嵐、吉井、前野、堀内氏のツワモノが入釣するらしくそれもみな河口の右に入るといふ。彼ら名人級と一緒に私の仕掛に見向きもしなくなるだろう。河口左には誰も下りないということなので、私は左に行くことにする。無料になった高速を使い午後9時には小平に着いた。これから12時間の釣りとなるが、用意したエサで足りるのだろうか。

小平薬川に架かる橋の手前でバスから降ろしてもらい河口に向かって砂浜を歩いた。思

いのほか距離があったが、本日のアカハラ釣りにマキエは必要なく、さほど苦勞することもなく河口に着いた。もちろん釣り人は誰もいない。

砂州の先端に出ていつ出るかわからない嫁対策のためにイソメをつけて1本の竿を遠投する。私の遠投技術では宮野氏が言っていた根には届いていないだろうが、20cmを超えるカレイでもハゴトコでも釣れてくれれば儲けものだ。そして、砂州が作った湾胴に2本のアカハラ仕掛けを振り込んだ。対面の砂州には釣遊会の4人が並んでいる。

海水が生温かい。猛暑で海水温度が下がらなく、いまだに20℃を超えているということだ。しかしアカハラ釣りには関係ない。波打ち際に打ち込んだ仕掛けに40cm～45cm級のものが5、6本続いた後に、小さなアタリに合わせて大物の手ごたえである。竿を横に寝かせて慎重に取り込むと50cm級のものだった。「まずは1本目」というところか。そして続けざまに2本目もきた。その後、50cm弱のものはそこそこ出るのだが、大物が出ない時間が続き、さらにウグイ級ばかりになってきたので、重たくした仕掛けを河口の流心に打ち込む。すぐによいアタリが出て、本日最身長となったアカハラが来た。しかし、その後、よいアタリが出るものの何度も根がかりさせては仕掛けをとられてしまった。こんなところで根がかりとは思えないのだが、後で聞いたところ流木が永年にわたって埋もれているということだ。そこに大物のアカハラが溜まっているらしい。だまし、だまししながら何とかその流木の中から50cm級を何本か手にした。

音なしだった遠投の竿に素晴らしいアタリが出た。遠投用の1本の竿は、アカハラ釣りの合間に何度か打ち返していたのだが、エサがそのままの状態に戻ってきていたのだ。それでも1本の嫁のために根気よくエサを付け替えて渾身の力で竿を振っていた。それに、アブラコの三段引きとも思えるようなアタリが出たのだ。喜び勇んで竿を煽る。乗った。グイグイと竿を引き込む。しかし、姿を現したのはこれも50cm級のアカハラだった。がっかりである。アカハラといえども50cm級はなかなか釣れないのだが今日はもう必要ないのだ。45cm以上となると何本釣ったのだろう。

用意した120本のゴロがすっかり無くなってしまった。午前2時、50cm強のアカハラ4本をバツカンにつめて河口右に向かった。仲間4名は黙々と釣り続けていた。それぞれ50cm級1、2本は確保しているのだが、河口周辺に集まった小物に悩まされているのだ。

私は一足早く、根があるという辺りでハゴトコ？狙いの遠投を繰り返すが全くアタリが出ない。何しろ海が異常に温かいのだ。前野氏もアカハラ狙いからアブラコ狙いに替えて竿を出したが音沙汰がない。1時間後、私は更に100メートル程右に移動して遠投を繰り返す。吉井、嵐、堀内氏も嫁を求めて花岡の方へ移動していった。20cmを超えるハゴトコ1匹を追加することで優勝できる状況なのだ。

前野氏が竿を仕舞い焼き肉の準備を始めた。本日は勝負を早々に決めてしまい焼き肉を楽しもうと用意していたのだ。しかし、アブラコを狙って出した竿が2時間経ってもピクリともしない。もちろん私にもアタリは1度も出ていない。吉井氏、嵐氏が竿を抱えて戻

ってきた。花岡湾洞の沖に並べたテトラ群を狙って遠投したがアタリは全く出なかったというのだ。堀内氏は更に奥へと進んでいったらしい。

午前7時、早々に焼き肉が始まった。発泡スチロール箱の氷で冷やされたビールが旨い。日本酒が旨い。天気は上々だ。それぞれが時々エサを付け替えているようだがノンビリとした時間が過ぎていく。こんな釣りもいいのかもしれない。

結局、誰も嫁を釣ったものはおらず、2魚種身長+5匹重量が1匹身長+4匹重量の審査となり私が優勝を飾らしていただいた。

審査結果

優 勝	鹿島釣狂	1 0 7 2 点 (アカハラ526mm+5460g)	小平川左
準 優 勝	前野達志	1 0 0 2 点 (アカハラ506mm+4960g)	小平川右
3 位	嵐 光博	9 7 9 点 (アカハラ501mm+4780g)	小平川右



52. 6cm以下4本のアカハラで優勝を果たす

☆入釣日 平成22年9月26日(日)
☆入釣場所 箸別川河口
☆釣果 シャケ 72cm(メス)

ビギナーズブラック

車の入れ替えだが、最終的には夏は燃費を重視しFFで、冬は安全を考えて4WDと切り替えが出来、燃費も比較的良い三菱RVRに決めた。RVRは最低地上高が一番高いので雪道ばかりでなく、釣りへの行程となる山道や砂浜への乗り入れができるのも魅力であった。9月25日(土)の夕方契約を交わした。10月末には届くということで、あと1カ月、10年連れ添った愛車ハリアーを思う存分可愛がってやろうと思っている。

「釣り新聞ほっかいどう」で斉藤英治氏によるサケ釣りのレポート記事が掲載された。「日本海のサケ、増毛町箸別川河口海岸一気に上向く。78センチのサケを釣った佐藤さん。留萌市で釣具店サーフアディクションを営んでいる佐藤基さんは・・・」と続いた。海水温が下がらず岸寄りが遅れていたサケが河口付近に寄り始めたらしい。

シャケ釣り経験のない息子を誘ってみた。息子の愛車は25km/1ℓは堅いというハイブリッド車プリウスである。ガソリン代の節約が出来る上に、いつでも自由に酒が飲めるというものだ。釣り場の確保のために午前0時半起床し、2時半には箸別川河口に着いた。こんなに暗い内から周辺は車が満杯状態であったが、偶然にも1台抜けた車があったのでそこに駐車する。

河口右にウキルアー組が10名ほど、続けて投げ釣り組が10名ほど、その端に荷を下ろした。ウキルアーで狙うつもりだが、場所確保のために2人分の竿立てを準備して竿を立てかける。竿先にギョギョライトを付けて念を押す。そのすぐ後にも釣り人が押しかけ順に並んでいって湾洞にかけて連なった。私は缶ビールの蓋をプシュッとやってから、ウキ釣りの準備をして夜明けを待つ。息子はウキにケミカルライトを付けてルアーを飛ばす練習をしながら夜明けを待った。最初はぎこちなかったケミカルライトの軌道が綺麗な弧を描くようになり、正面へのコントロールと共に飛距離も出るようになってきた。そして二人とも4時半にはエサを付けて釣り始めた。

水平線の先がボヤッと明るくなり出した時、なにやら息子が竿を大きく曲げている。シャケが掛かったらしい。息子の初シャケに声援をおくりながら波打ち際に駆け寄ったが、ゴロタ石に魚体が当たった瞬間にばらしてしまった。掛かりが浅かったようだ。初シャケゲットとはならなかったが、息子のアドレナリンが一気にほとぼり出てきたのを感じる。釣り経験のほとんど無い人間がああ強烈な引きを体験したのだから無理もなからう。

気を取り直してルアーを飛ばし始めた息子にまたまたシャケがかかった。今度は指導通りグイグイッ、グイッと竿を煽ってシャケの顎にハリを食い込ませている。そしてそのシャケを無事に取り込んでしまった。

隣で投げ釣りをしていた釣り人が声をかけてきた。何と斉藤英治氏の記事で紹介されていた佐藤氏である。彼に記念撮影してもらおう。この写真を斉藤英治さんに送るのでひょっ

としたら新聞に載るかもしれないことを話してくれた。楽しみにして待つことにしよう。



息子が釣ったシャケからは今にもはちきれそうなイクラが出てきた。

☆入 釣 日 平成22年10月06日(水)

☆入釣場所 箸別川河口

☆釣 果 シャケ メス3 オス1

逃したやつは大きい

前回のシャケ釣行より1週間以上が過ぎた。朝夕はめっきりと寒い日が続き、大雨や時化もあり、水温は20度を下回るようになってきたことだろう。水温の低下を待ちわびていたシャケが河川への遡上のために一気に岸寄りしているものと思われる。

6日は水曜日で午後勤務に加えて息子の講座が休みの日でもある。午前2時半起床。4時半には箸別川河口に着いた。平日なので優々と河口付近に入れると思っていたが、前回よりも更に混み合い河口から少し遠くなった。すぐに明るくなると思われるがウキに蛍光ライトを付けて息子がまず釣り始める。

自分の仕掛けを準備していると、息子が腰をためている。シャケがかかったようだ。2投目でシャケが来たということで前回の経験もあり難なく釣りあげてしまった。型は小さいが銀ピカの雌である。ウキ釣りを考えていた私だが、アワビオレンジのルアーを付けて投げこむ。私にもシャケがかかった。これも銀ピカの雌である。息子がまたまた腰をため

ている。指導通り針を食い込ませるために竿を何度か煽った。しかし、その瞬間シャケをばらしてしまった。ルアーを付けたままウキが河口方向に向かって勢いよく泳いでいく。息子は今までにない大物で凄い引きだったというが逃がした魚とはそういうものだ。ハリスをみるとボロボロであった。慣れないルアー操作で波打ち際の岩に何度もルアーを当てていたのが原因だろう。ハリスの先を切り、新たにルアーを付け替えた。またまた息子に掛かり、これも銀ピカの雌である。私にもシャケがかかった。波打ち際で針が外れたが雄で型が少し大きくなった。お互いに2匹ずつ来たことで8時半に終了とする。



息子の足元にはホッチャレの死骸があった。釣り姿も前回よりは様になってきた。

